

令和7年度第1回酒田市男女共同参画・女性活躍推進懇話会提言等概要

■人権意識の普及・啓発

- ・孫世代と交流しジェンダーギャップを解消することが必要。
- ・人権について大人も考える機会がほしい。職員研修の実施等。
- ・小中学校の人権教育に、もっと当事者の生の声を聞く機会を増やしたらどうか？
- ・学校施設において、性的マイノリティに配慮したトイレを設置してほしい。”ジェンダーレストイレ”（台湾にはある）。
- ・小中学校だけの人権教育だけでなく、幼児から紙芝居や動画などで伝えていくとよいのでは。

■国際交流の推進

- ・姉妹都市になったいきさつ・エピソードをわかりやすく市民に伝えるイベントを開催してほしい。
- ・国際交流のはじまりのきっかけや、なぜここだったのかを市民が理解できるといい。
- ・姉妹都市と食文化交流会や一般の人も参加しやすいツアーなども企画してほしい（一部の人だけではなく）。
- ・＜男女共同×国際＞友好姉妹都市とのジェンダーオンライントークを行ってはどうか：中国唐山市（ジェンダー106位）、米オハイオ州デラウェア市（ジェンダー43位）、ニュージーランド（ジェンダー13位）、日本（118位）。
- ・交流ひろばの強み（男女共同×国際）を生かした事業・イベントを行ってはどうか。
- ・男女共同×友好市オンライントークを行ってみては。
 - テーマ（案）首都圏との違い
 - ・酒田×東京都北区
 - ・酒田×武蔵野市
 - テーマ（案）東北の課題共有
 - ・酒田×秋田市
 - ・酒田×岩手県平泉市
- ・姉妹都市デラウェア市とは、行政で交流を再開後、草の根交流につなげていくとよいのでは。
- ・友好都市との交流はとても大事だが、成果が市民にうまく伝わってこない。
- ・令和8年4月から公益大に国際学部ができるので、何か連携できないか。

■アンコンシャス・バイアスの解消

- ・「これアンコン！」、商業施設で掲示してはどうか。
- ・高齢者にアンコンについて知ってもらうには？祖父母参観など小さな子どもと一緒に学べる機会があったらよいかも。
- ・高齢者へのアンコン認知のため、百歳体操で話す場を作っては？
- ・「これアンコン！」のポスターで1枚わかりやすいのがあるとあちこち貼れて周知しやすいのでは。
- ・「これアンコン！」企画展のような楽しい企画を続けてほしい。
- ・ほんわかしたイラストでゆるい感じでアンコン・防災問題などを紹介すると周知しやすいのでは。

■酒田市男女共同参画推進センター・ウィズの周知

- ・「男女共同参画」単体ではなく、他の要素とかけ合わせてはどうか（国際交流、ボードゲーム、コーヒーの淹れ方講座）。
- ・ウィズの企画を官民の重要施策と合わせ技にして認知度を高めてはどうか。例）人材確保・定着のための男女共同参画
- ・認知を上げるために SNS を活用できないか？
- ・ウィズが一体何か？一般市民が理解していないと思う。
- ・「ウィズ」がどこにあって、なにが目的、だれが対象などわかりやすいとありがたい。

■出前講座の申込促進

- ・山形市のように市立小中学校への出前講座を年間計画に入れてはどうか（前年 12 月頃まで）。
- ・アンコンの講座は高齢男性にも受けてもらいたいのでは。
- ・申込制でなく自治会とタイアップして研修の一環として年△団体を回るのはどうか。
- ・出前講座を各コミセンでの悉皆講座としては？
- ・高齢者を主なターゲットに男女共同参画の講座を多く開催してほしい。
- ・出前講座の様子を短く紹介する動画を作成し HP 等で発信してほしい。
- ・出前講座をプッシュ型でなく意見を聞いて設定してはどうか。
- ・コミセンでの百歳体操、食改イベントなどをからめて伝えようと参加しやすそう。
- ・ナリワイ（鶴岡）やママジャム（山形）など女性を中心となって企画、実施しているイベントのアイデア・声を反映させてはどうか。

■男性のイベント参加の促進

- ・男性参加者増のため、地元の消防団の集まりや保育園のまきこみなどはいかがでしょうか。
- ・夫婦で参加しやすいように「新しい夫婦のカタチ」みたいなテーマはどうでしょうか。
- ・家計を節約する手法をテーマとする講座に夫婦で参加するのは？
- ・東根市のクリエイティブひがしね「パパサロン」等あり、参加者も多い。参考にしてはどうか。
- ・パパ（男性）同士が気軽に参加できるコミュニティが少ないので増やしてほしい。
- ・男性の参加が少ないのは”休めない”など働き方に課題もあるのでは。

■女性の参画促進のための法整備の必要性

- ・制度化・法制化が必要ではないか。日本よりジェンダー格差が激しかった国々での成功例を参考にしては？

■企業・団体における女性の参画促進

- ・リーダー育成が必要。
- ・ライフステージに合わせ時短できる環境整備が必要。（副業、社会とつながるため）
- ・育休しても昇給してほしい。
- ・社内での女性登用に向けた人材制度相談があればいい。
- ・地域の担い手応援企業が増えるといい。働きながら民生委員ができるなど。
- ・企業向けに先進企業の事例紹介やセミナー（アーカイブあり）を実施しては。やまがたイクボス同盟の取組みを利用するなど。
- ・市と社労士会庄内支部の連携協定を締結し、企業運営を支援してはどうか。

- ・各団体が推薦する際に女性候補の有無を明示して意識づけにするのはどうか。
- ・男性が多い職場、女性が多い職場がまだ多い。職種による偏りをなくす必要がある。
- ・団体や企業のモチベーションを高めるために、ジェンダー平等の環境を整える必要があるのでは。
- ・若年女性の転出超過とからめて働きやすい職場づくりを進めてほしい。

■チェリア塾の受講促進

※チェリア塾：山形県男女共同参画推進センター「チェリア」が主催する女性の人材育成事業。

- ・女性団体に限らず、子育てとか女性の代表がいる団体へアピールしては。
- ・ワークショップや講座受講のあとのつながりづくりの工夫が大切では。
- ・参加した後の感想を公表するのはどうか。

■地域活動における男女共同参画の促進

- ・若い世代からコミ振の活動に参加してもらい、会長等の女性割合を上げるとよいのでは。
- ・自治会・コミ振の体制（運営の仕方）を見直し、スリム化することで、女性を含めて誰でも参加しやすくなると思う。
- ・自治会長を若い世代に交代してはどうか。
- ・自治会の先進事例を集めてはどうか。役員一覧、運営手法、年間事業など。市担当部署の作業効率化・負担軽減のため、生成 AI で集約、情報共有。
- ・自治会どうしの人事交流制度があると目からウロコ？（インセンティブも創設）
- ・忙しい人も参加できる自治会運営に改めては。
- ・自治会の取り組みの面白さを伝えてほしい。
- ・女性だけの団体（固定された役割）を改める必要がある。例）婦人部
- ・地域はまだ男性社会。固定された役割も変える必要あるのではないか。
- ・若者のジェンダーに対する理解のギャップを、高齢者への教育に活用してはどうか。
- ・家事シェアを進めて、女性が地域の集まりに時間を気にせず参加できる風土づくりが必要では。

■防災対策における男女共同参画

- ・女性目線をもっと多く反映した避難所運営が必要。
- ・防災個人スペースを確保する必要があるのでは（台湾がうらやましかった）。
- ・災害体験コーナーを常設してほしい。
- ・防災グッズやおしゃれアイテムの店（カフェ）が欲しい。
- ・”防災カフェ”を作っていただきたい。豪雨や様々な過去の酒田災害をふまえて、知って交流・学べる場がほしい。
- ・地域の中心は男性なので、女性視点の対策が欠けていないか。
- ・「炊き出しは婦人部」など役割が固定されていないか。
- ・女性防災リーダー募集、防災コーディネーター募集の情報など、市の LINE や SNS でも知らせてほしい。
- ・防災食の見直しの必要がある。水害時、超加工食品、添加物の多さで体調を崩す人も多かった（菓子パンなど）。食べなじみのある郷土食レトルト食品の製造促進。
- ・防災研修の場でジェンダー平等について触れておくとよいのでは。

■ひとり親家庭の自立の促進

- ・ひとり親が地域とつながる時間が持てるような支援をしてほしい。
- ・養育費大事。第3者を入れて支援できるといい。
- ・制度・サービスを知らないのであれば、ひとり親になった時に窓口で周知しては。SNS も。
- ・SNS の周知が必要では。
- ・ひとり親講座をテーマをしぼって開催しては。
- ・ひとり親家庭と地域（コミセン）などがつながれる仕組み、サポーターがあるとよいのでは。
- ・フランス式の養育費（男性側が親子関係がないことを理由に養育費の支払いを拒否する場合に、親子関係にないことを DNA 鑑定等で立証する必要がある。養育費の支払いについては間に国が入る等）をぜひ。

■障がい者の社会的自立の促進

- ・就労を通した(就労先の事業所・企業をフィールドとして)、そこに勤務する障がいのある方と地域住民が交流する機会を創出してほしい。
- ・障がい者にはこの仕事…と決めつけるのはよくない。できることは様々ある。会社側のとらえ方を変えていく必要がある。
- ・カフェ「え〜る」：市イベントにキッチンカーのように出店しては。キッチンカーを活用して防災食の炊き出しをしてはどうか。
- ・障がいを持っている方の良さ(得意な所)を見出しサポートする所があるといい。

■高齢者の社会参加の促進

- ・シニアボランティアの活躍の場の創出してほしい。
- ・シニアの方が外国人に日本語を教える場があるといいのでは。

■外国出身者も暮らしやすい環境づくり

- ・地域と外国人の触れ合いの場のマッチングがあるといいのでは。
- ・市のイベントだけでなく、地域の取り組みにも参加できるような外国人への施策をしてほしい。
- ・外国人だけの参加（日本人だけの参加）ではダメ。外国出身者（家族）と日本人が交流しやすいイベント内容を研究してみてもいいのでは。
- ・イベント（あそび）以外での交流の場を創出しては。例）防災教室
- ・就労目的で日本にくる外国人が最初にふれるフィールドは会社・事業所。そこでの交流が地域での交流に広がっていくのでは。
- ・外国人移住者、集団（企業）、個人が自己紹介やメッセージなど紹介する SNS、コーナーなどがあると安心できるのでぜひ作ってほしい。
- ・日本語ボランティア、初心者には交流会企画を担当してもらい、スタッフとしての役割意識を高めるのはどうか。
- ・中高生が参加して外国人の言語を発信する企画は？

■多様な人材の活躍

- ・ハローワークでお試し職業体験などキッザニアのような体験を学生ができると地元で働く人も増えるかも。

■企業における男女共同参画

- ・一般事業主行動計画取得後にえるぼしの宣伝を強化しては。
- ・働く場における男女の均等な機会と待遇の確保の視点からの男女共同参画の講座などを、企業等でできればよいのでは。
- ・赤ちゃんがいる役員にえるぼし取得の意見をもらってはどうか。
- ・賃金格差の可視化が必要。業界ごとや規模ごと。
- ・企業評価のあり方の再検討。選ばれる企業は？
- ・女性が管理職へ一步踏み出すには、現在の管理職（上司）の仕事の内容の透明化を社内で図ることが必要。管理職になった場合の仕事内容・職場環境を知らないと女性は（男性も）管理職に飛び込めない（＝挑戦できない）。
- ・正社員・バイト・副業人材、うまく役割分担（収入）できる環境がほしい。
- ・アルバイトの待遇改善を。
- ・企業側でパートタイム勤務をもっと柔軟に対応してほしい。
- ・人材流失のリスクについて、企業経営者に注意を促してはどうか。

■家事シェアの推進

- ・家事シェアチェック宣言は親子（夫婦）イベントで実施してはどうか。
- ・子どもの視点で「うちの家庭は家事シェアできているか」を評価してもらうのはどうか。子どもから親への通知表。

■保育サービス等の充実

- ・保育サービスを利用した方のリアルな声は拾っていますか？（アンケートなど）
- ・保育サービスの登録相談会など、3か月検診などで周知してみると利用しやすいかも。
- ・子育ての楽しさを伝える方法を検討する必要がある。大変さにまざる楽しさ。
- ・子育てサークルの認知度を上げたい（パパの交流も増やしたい）。
- ・「父親手帳」も母子モみたくアプリ化しては？常に子育てを一緒にできる。

■家事・育児等に関する各種講座

- ・「酒田愛ごはん講座」をもっと若い人に周知しては。学生の探求のテーマなどに。
- ・若い世代は時間に余裕がないため、時短で作れる酒田の料理など受講後も活かせる内容のものがほしい。
- ・男性の料理教室などの男性が集まるイベントは、男性の孤独や生きづらさの改善につながると思うので、継続してほしい。

■多様な働き方

- ・UターンやIターンなどの方には柔軟な働き方が必要ではないか。
- ・働き方改革をもっと進めてほしい。
- ・週3日、1日4時間くらいでも働けたり賃金が補償されたりすると、働き方の選択肢が増えると思う。

■地元の（地元出身の）学生・若者への意識啓発

- ・進路サポート講座の講師は女性が多い？男性も良いと思う。

- ・高校生はどうしても一旦地元を出たい人が多いと思う。就職を考える大学生に対する PR が大事。
- ・自営業、公務員、民間それぞれで働く人の学生向けのトークセッションなどがあると面白そう。
- ・売り手市場なので、学生への PR のやり方を工夫する必要がある。地元で働くメリット。
- ・高校生の職場体験をしてはどうか。
- ・大学生への企業 PR の機会をいかに増やすか。
- ・県外に流出した若者に情報発信。例えば高校の同窓会案内などにチラシ入れたりできないか。
- ・就活中、転職中の人向けの酒田での就職に特化したサイトなど作れたらいい。
- ・熱量のある社長をピックアップして話してもらえば。

■スキルアップの機会の充実

- ・コミュニケーションスキルの講座などで、自分の気持ちを表現する方法だけでなく、人との距離の取り方、嫌なことを言われた時の対処法などを学べたら。

■女性のチャレンジ支援

- ・女性役員の働き方を市役所のサイネージで PR しては。
- ・働く女性の異業種交流をしてほしい。
- ・女性がリーダーになるメリットを具体的に示すことで、リーダーが増えるかも。

■仕事に関する相談の場所の充実

- ・似ている環境、境遇の人と話せる場があるといい。
- ・職場から離れた心理的安全の下でのキャリアカウンセリングがあるといい。

■DV（ドメスティック・バイオレンス）や児童虐待の根絶

- ・ライトアップの場所を増やしてほしい。市役所、ミライニなど。
- ・デート DV 防止講座：生徒向けだけでなく教員向け、保護者向け（PTA 研修）にもしてほしい。
- ・デート DV 防止講座を中学生にもしてほしい。
- ・オレンジリボンをいろいろなところに配布し意識啓発してほしい。

■相談体制・DV 等の被害者サポート体制の充実

- ・ウィズの周知、相談窓口は幅広くにアピールすべき→SNS、ウィズレターに載せるなど。
- ・困難女性の居場所スタート→たくさん周知してほしい。
- ・相談媒体、SNS はどうか。若い人は電話が苦手。
- ・「女性相談窓口」を知らない人が多いのか？申込フォームの選択肢があるとよい。
- ・教育相談の周知の手立て、市の公式 LINE を中高生にアピールして情報発信してほしい。
- ・相談したいこと、相談員の希望(男女、年齢)を二次元コードで入力できたらいい。
- ・困難な女性が気軽に話することができるカフェがあるといい。

■性と生殖に関する正しい知識の普及・啓発

- ・性に関するウィズ講座を PTA 研修に売り込むのはどうか。
- ・幼児期からの「性といのち」の学習が必要では。※性暴力の防止、いのちの大切さを知る。
- ・性に関すること、保護者の理解を促す重要性→健康診断の時に簡単な研修をしてはどうか。
- ・生理用品サポート事業を LINE で知らせてはどうか。スーパーにカードを置くのもいいかも。

- ・ 中学3年生への少子化リーフレットの効果は疑問。中学校からの要望あるのか？

■予防対策の充実

- ・ 検診の申込、SNS できるといい。
- ・ 検診を自分事として捉えられる仕掛けがあるといい。対象を働き盛りの人に絞るなど。
- ・ 検診を受けた人へのインセンティブをわかりやすくできるといい。

■心と体の健康づくりの推進

- ・ 健康講座、アランマーレとか巻き込んで？
- ・ 人気のある健康講座に同行し、男女共同参画を伝えるのはどうか。
- ・ スポーツに取り組めない、生活や仕事の余裕がない人向けのジム通いの補助チケットがあるといい。

■その他

- ・ 民間パパ講座への市による参加費助成をしてはどうか。